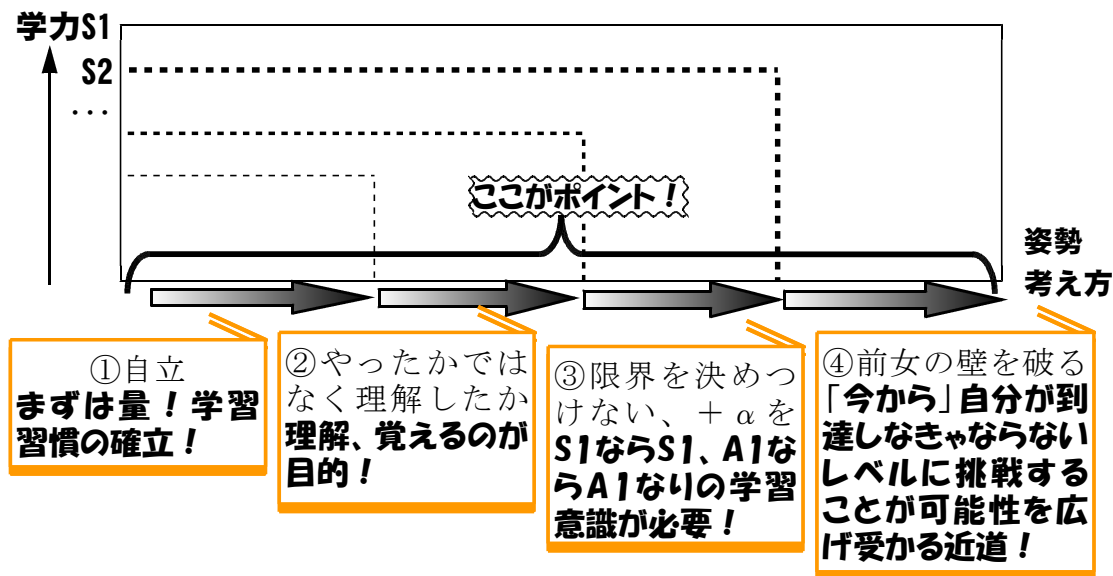


ステップアップの夏休みに向けて

まずは以下の図を見てほしい。



受験学力＝縦軸〔学力〕×横軸〔姿勢・考え方〕

いわゆる能力があっても、学習に対する姿勢や考え方、学習量が伴わないと、膨大な範囲（特に、難関大になればなるほど）の大学受験での勝利は得られない。縦軸の潜在能力があっても、横軸が甘いと到達点は一つ二つ下のところになってしまう（いわゆる“もったいない”結果となる）。だから、持っている能力を100%活かすための姿勢や考え方が鍵となる。

○「横軸」の壁を突破せよ！

自分の学力を満たすためには、横軸の「姿勢・考え方」も同様のランクにしないと大学受験レベルは到達しない。だから、「横軸」を右にどれだけ伸ばせるか、「横軸」の壁を一つ一つ突破する努力や工夫をすることが夏休みの“一番の課題”と心得よ。

○①ができていない人

できるようにするための工夫と覚悟を。具体的には「親」を使う。「塾」の自習室を使う。親に宣言したり、監視してもらって、まず机に向かうスタミナをつける努力を。そして、「学習の記録」を必ず記入（夏休み明け全員提出）し、可視化して、常に自分を客観

的に管理できるようにすること。習慣化できたら、あなたの勝ちだ。

○②ができるかどうかスタンダード

いわゆる「量からの質」の段階だ。せっかくやるのだから、ただ課題を終わらせるのではなく、ただ時間をこなすだけではなく、「どれだけ覚えたか・理解したか」を常に意識して1日を振り返ること。

そして、学習内容も、自分の力をつけていく内容をしっかりチョイスしたい。極端だが、今「九九」を復習しても、“できる”が“受験学力のレベルには到達しない”。つまり、易しすぎる課題をやっても、自己満足で終わってしまう。逆に、難しすぎる課題をやっても身に付かないのであれば、積み上げた学力は0（ゼロ）だ。これも「難しい問題やっている自分」で満足しているだけになる。

○③④がいわゆる難関大学、「Sランク」の大学征服のカギ！

基礎問題でマークシートの共通テストと応用問題で記述式の国公立2次試験。細かい知識を問う私大一般入試。今の自分の力で解ける問題で満足し、難しい応用問題にチャレンジしないのは、自分の“知力”を磨くことにならない。

○必ず「V字」を

長い休み期間。だらける時もあるがそのままに下降線にならず必ず巻き返す！臨時休校期間で「うまくいかなかったなあ・・・」と思っている人、ここで巻き替えず、やり返すチャンスだ。倍返しだ。

夏期講座

8/3(月)～8/7(金)	夏期講座Ⅰ	1, 2年生全員 [英国数]、3年生希望者
8/8,9,17,18	夏期講座Ⅱ	3年生希望者

「勉強すること」を将来に繋げよう。
そのために今に、これからの社会に目を向けよう。

「勉強すること」そのものに意味があるのです

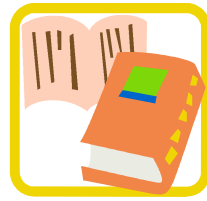
今の力で入れる大学ではなく。

大学や専門学校に進学することはみんなの将来の可能性を広げることでなければ意味がありません。そして、受験勉強をすることで得るものはたくさんあります。知識はもちろん努力する大切さ、忍耐力、計画性、自分の殻を破ること、挫折や失敗も含めてこれからのあなたの人生の大きな経験値となります。だから、

「今からやって受かりますか？」ではなく。



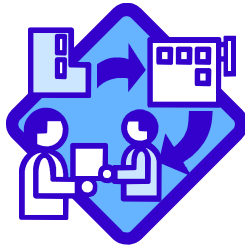
「受からないなら勉強やらない」ではなく、「勉強は嫌いだからやらない」ではなく、勉強することがあなたの可能性を広げてくれることに気づきましょう。既に受験モードに入っている生徒も同様です。今頑張っていること、身につけていることがあなたにとってプラスになっているのです。知識は人を自由にします。そして、たくさん知った知識を繋げていきましょう。



そして、みんなは遅かれ早かれ社会に出る。その社会に出るために、

変化の激しいこれからの世の中に対応する力

を身につけなければならないと言われてますね。みんなの親の時代（つまり、先生も含めて）には良い大学を出て安定した仕事に就職して・・・というのが大きな価値観としてありましたが、「変化の激しいこれからの世の中」ではどうでしょう、良い大学（いわゆる学歴）も有効な一つのカードとして残ると思いますが、それだけではなく「変化に対応する力も身につけていく必要」がありそうですね。受け身ではなく、思考判断、問題解決能力を持てれば、変わりゆく世の中に対して主導権を握れるかもしれません。



変わる社会に“能動的に”対峙するんだ

今の世の中、社会に目を向けて行くと、色々なことが見えてきそうです。

日本は人口減少、少子高齢化社会。県、市、町といった行政の収入は「税」ですから、今の枠組みでは日本、自治体の財源はこれからもたない可能性がありますね。そうすると「公務員は安定している」という概念はどうなりますかね？リストラされること

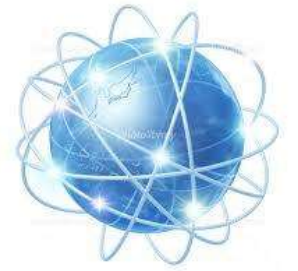
はなくても給料がとてつもなく下がることも考えられますね。こういった変化の中で、枠組みを新たに再構築できる公務員、自治体に新たな収入源をもたらせるビジネス感覚を持った公務員が求められるでしょう。

国際化社会。 これまでの日本の枠組みや考え方では対処できないことが出てきます。治安は？コミュニケーションは？共生の仕方は？文化の違いは？日本の良さが壊れるのでは？こういった不安が出てくる反面、逆にこれがビジネスチャンスになる。言語を身につけるだけでなく異文化理解や共生の仕方を考えることが大事と思える人も出てくるでしょう。

情報化社会。 これまで既存の新聞、地上波のTVといったメディア媒体からインターネットによる動画配信、SNSによる情報発信など多岐にわたる情報媒体となっている。これに振り回されるのか、使いこなすのか。既存のマスメディアがそれでも優勢なのかそれとも変化を加えながら生き残るのか、紙媒体はどうなるのか、正しい情報とは何になるのか、新しいコミュニケーションツール・多チャンネルの情報化によってどのような社会となり、どのような人格が形成されていくのか、などメディアや社会学一つをとっても大学

で学び社会で役立てることができないじゃない。

AIは新しい産業革命と呼ばれている。そういう時代によって、AIによって今の仕事の〇〇が取って代わられるということに右往左往するより、AIを使った新しいビジネス、AIを使った人口減少、高齢化社会の自治体のサービス、AIを使いこなせる技術やマネジメント能力、こういった観点の力を身につけるといいんじゃないか、なんて考えてみる。



地震や大雨災害などの**自然災害**も、そして**ウイルス**の脅威、歴史的観点で見れば、人類の英知で克服してきた。都市工学で災害に強いまちづくり、新しい薬の開発、コロナウイルスのワクチン開発だけでなく、花粉症に撃退する治療薬、アレルギーが増えている現代でアレルギーを根本からなくす治療を期待している人は多い。理系の研究がどう社会を良くしていくことに、人類を救うことに寄与していくのか、そういう観点からも進路を考えていってほしい。



AI、国際化、情報化、大規模な自然災害、そして新型コロナウイルスの影響による新しい生活様式・・・、こういった新しいものが入ってくればルールも変わる。これまで考えられなかったことが起こる。そうすると新しい統治方法、約束事、法、社会のあり方も考えなくちゃなくなる。それらを新しく考え、創造する側になるんだ。教育もそうよね。時代によって変わるものに対応できる人材を育てるとともに、これまで人類が積み上げてきた普遍的な知識そのものを伝えていく役割。どのような人材を育てるべきか、そういったことを常に考えていく必要があるよね。芸術やスポーツもこれらの新しい流れの中で、既存の価値観でない「あり方」や「文化」を考えていくことができよう。

また、「働き方改革」が叫ばれている中、労働環境は変わっていく可能性は大いにある。経営者側から考えれば雇い方、生産性、収益は？に直面するし、全体的には仕事とプライベートのバランスの新しい考え方となるだろう。個人的には、ストレス社会の中で「心理学」も重要な位置を占めてくると思うんだよね。犯罪も凶暴化しているし、犯罪の低年齢化も問題になっている。情報化、国際化によるストレス、あつれきも。「心理ゲーム」「人が何を思っているかに興味があって」からさらに一步踏み込んで、「これからの社会で心理学が果たす役割は大きい」そういう意識で心理を学べるか、が大事だと思う。

これら全体の枠組を考え創っていく側に回る人材が、前女から出るべきだと思うし、ぜひその一躍を担ってほしい。社会の枠組、教育の枠組、スポーツのあり方を考える枠組、国際化社会の問題を解決する仕組などね。

ピンチをチャンスに

先行きが不透明で、悪くなっていくんじゃないかと不安な人も多いと思う。そこで、受け身に守りに入るのではなくて、「こういう時代だからこの後どうなっていくのだろう、人や社会が求めるものは何だろう」と“ピンチはチャンス”という発想で、**能動的に考え動いてみよう。**みんなにはその力があるのだから。

